

# 香取遺産

vol. 231

間近で見ると今更なるうち！  
香取神宮拝殿の塗り直し

香取神宮では、12年に一度の式年神幸祭に合わせて修理事業などを実施しており、現在は令和8年4月の執行に向けて各種整備が仕上がりを迎えています。

そうした修理事業の一つに、香取神宮拝殿の塗り直し事業があります。丹塗りの楼門をくぐって正面にあたる拝殿は、多くの人が参拝を行い、中で祭事を行う建物です。

香取神宮拝殿・幣殿・神饌所として国登録文化財の建造物であり、昭和15年に内務省神社局直営で造営されました。屋根は檜皮葺で、正面には千鳥破風と軒唐破風を付けています。足元から頭貫下部までの軸部は黒



▲修復中の拝殿内部の様子



▲修復中の拝殿の様子

漆塗り、組物と墓股は極彩色が施され、高欄などに金具が配されています。なお、この造営にあたり元々あった旧拝殿(県指定文化財)は東側に曳家(ひきや)され、現在は祈禱殿として利用されています。

前回の式年神幸祭の前に拝殿・幣殿・神饌所の塗り直しを行ったところでしたが、雨や西日などによる劣化が正面左側(西側)を中心に進んでいたため、内部を除き正面側を中心に

塗り直しなどを行いました。具体的には、黒漆の塗り直し、彩色の補修、金具の取り外し修理を中心に実施しています。特に黒漆関係では、旧塗膜掻き落とし、下地作業、中塗り(2〜5回)、上塗り、仕上げと、多くの工程を経て行われます。

11月中には足場が取り外され、塗り直された拝殿を目にすることができるようになります。完成直後の黒漆塗りは、滑らかで艶やかな仕上がりとなっています。しかしながら、こうした状態は数カ月しか持たないとのことで、年末年始の時期に参拝する機会があれば、今しか見れない艶を目にすることができるとは幸いです。

今回の式年神幸祭に向けて、香取神宮の参道沿いでは表参道赤鳥居、総門、手水舎、楼門、拝殿正面、本殿透塀(すきべ)で塗り直しや整備が進められました。参拝の際には保存修理後の各建造物にも注目ください。

園生涯学習課 ☎(50)1224